

2021 年度 CREST「オプトメカ結合」研究・リサーチアシスタント募集

2020.3.21

研究代表 東京工業大学 宗宮健太郎

本制度は、H30 年度に採択された CREST 研究「量子制御を用いたオプトメカ結合型調和振動子のマニピュレーション」に携わる大学院博士（後期）課程学生を学生アシスタント（RA）として雇用するものです。給与は月額 15 万円です^{注1}。募集人数は 2 名です。雇用開始は 2021 年 4 月です。雇用期間は単年更新とし、最長で 2023 年 3 月までとします。

本研究に従事する研究グループは以下の 7 つです。

- ・東京工業大学 理学院物理学系 宗宮グループ（非線形光学を用いた信号増幅実験）
- ・東京大学 理学系研究科 道村グループ（光学浮上実験）
- ・東京大学 先端科学技術センター 宇佐見グループ（核磁気共鳴実験）
- ・東北大学 学際科学技術フロンティア研究所 松本グループ（量子計測実験）
- ・京都大学 理学研究科 武田グループ（核磁気共鳴実験）
- ・OIST 量子情報物理実験ユニット 高橋グループ（ファイバ共振器開発実験）
- ・慶應義塾大学 理工学部 山本グループ（干渉計理論）

国内の大学の正規課程に在籍していれば、上記に示す大学に所属していない大学院生の参加も歓迎しますが、上記のいずれかのグループにて毎月 63 時間は勤務していただく必要がありますので注意してください^{注2}。なお、勤務地までの交通費は本制度からは支給されません。

研究内容の詳細については上記研究グループに問い合わせるか、下記までメールで問い合わせてください。

ra2021@gw.phys.titech.ac.jp

申請方法と審査方法は以下の通りです。

[申請方法]

- ① 本制度に申請するには日本学術振興会特別研究員 DC1 もしくは DC2 に申請済みであることを条件としますので、まずはそちらに申請してください（当方への連絡は不要です）。
- ② 日本学術振興会に提出した申請書のうち、申請書情報と申請内容を改訂せずに 2020 年 6 月 15 日までにメールで送付してください。評価書は不要です。
- ③ オプトメカ結合研究を遂行する上での抱負を 1 ページ以内で簡単に記述して②と共に送付してください。様式は問いません。PDF ファイルで送付してください。

②③ともに、送付先は、ra2021@gw.phys.titech.ac.jp です。

[審査方法]

- ・ 審査基準は、研究者としての将来性、研究内容の具体性、研究の準備状況、期待されるオプトメカ結合研究への貢献度、の4点から成ります。
- ・ 審査は原則として書類選考のみとします。
- ・ 日本学術振興会特別研究員に採用された場合は、本制度の方を辞退していただきます。
- ・ 2020年8月下旬までに審査結果を通知します。応募者の中から2名を上限として採択とし、さらに若干名を補欠とさせていただきます。補欠の方は、採択候補者が日本学術振興会特別研究員に採択されて本制度のRAを辞退し、補欠の中で最上位となった場合にのみ、追加採択となります。追加採択の連絡は11月頃となります。

その他の注意事項を以下に記します。

- ・ 注1) 注2) について：給与は時給制で、月に63時間勤務した場合の給与が月額で15万円ということです。また、規定により学生アシスタントの勤務時間は週20時間が上限となっています。
- ・ 本制度は2021年4月1日の時点で国内の大学院博士（後期）課程（正規課程）に在籍する学生を対象としています。申請時点で在籍している必要はありませんので、博士課程に入学を予定している方の応募も可能です。
- ・ 本制度は単年更新ですので、採択された場合でも毎年同じように申請していただくことになります。過去に採択された方が有利になったり不利になったりすることはありません。
- ・ 採択され、研究に従事していく過程で、研究テーマを変更することになった場合は、年度の途中で雇用を打ち切ることもありますが、研究テーマの変更を妨げるものではありません。指導教員と話し合い、どの段階でテーマを変更するかを事前に報告してください。
- ・ 休学する場合は休学期間中の給与は発生しません。また、休学期間分の雇用期間の延長もありません。
- ・ 研究していることを確認してくれる教員のもとで研究に従事するのであれば、研究グループの外で研究することを認めます。特に、本研究はフランスLKBのHeidmannグループ、LMAのDegallaixグループとの共同研究となっていますので、いずれかの研究グループで従事する場合は渡航費をサポートします。